

確実な安全対策と 情報共有体制を構築

道建協ら新潟で講習会

日本道路建設業協会北陸支部と新潟県アスファルト合材協会は3日、新潟市の新潟東映ホテルで安全講習会を開いた。両団体の会員企業の代表ら124人が参加した。

道建協北陸支部の堀吉伸支部長は、「身の回りにおける危険の放置・黙認がないよう、チーム間のコミュニケーションを強化し、情報を共有する必要がある。事故や災害の発

生防止を自分事と捉え、取り組んでほしい」と力を込めた
写真。



北陸地方整備局企画部の岩崎義一工事品質調整官が「工事の安全管理」、道建協の井上英司氏が「建設副産物対策」について、それぞれ講演した。事例発表では、東亜道路工業の加藤重希現場代理人が「R5・6国道8号長岡国道管内橋梁補修他工事」、日本道路の小島力現場代理人が「R5新発田維持管内舗装修繕工事」の取り組みを紹介した。

最後に両団体の安全環境委員長が安全パトロール活動を報告した。

